



Wakakei2007 若き経営者の会 WEBニュース会報



<http://www.wakakei.com/>

7月講師例会（7月13日）
教育部 部長 木田英二

7月度の講師例会は、株式会社河村福祉サービス・代表取締役の河村高志氏をお招きし、「福祉、介護制度の現状と将来について」と題してご講演して下さいました。〇ムスン問題で、ちょうどいい時期に講師例会を開催する事が出来たと思います。例会内容としては、介護制度のしくみ、介護保険、訪問介護料金、サービス内容などをお話して頂き、あらかじめ各部会でお伺いした質問に答えて頂きました。また、質疑応答でも多数の質問がありました。これから先、介護問題で厳しい時代がやってくる事が実感出来たのではないのでしょうか。例会には24名と多くの会員が参加され、大変ためになるお話しをご講演して頂いたと思います。



春の日帰りバスハイク（5月20日）
文化部 部長 猪熊修太郎

今回のこの事業を振り返って思う事は、会員・会員家族が協力して行えた良い事業であったなという事です。一日を通じて冴え渡った窪田さんの名司会、最高でした！ 原さん・瀧口さんによるアトラクション軍手上げでは、大人の皆さんの反射神経が予想以上に良くビックリ！ 又、往きのトイレ休憩で立ち寄った道の駅・長門峡では、幸運にも文化部が誇る波乗り迷カメラン瀧口さんが、SLやまぐち号の疾走するその勇姿を捉える事に成功しました。この時は流石に日頃の行いの良さを感じずにはいられませんでした（自分の？）。船方農場でのバーベキューでは、食事の後半になると、思い思いに集まって新たな宴会が始まっていました。木陰のベンチで昼寝されたり、家族サービスなどで船方農場の自然を満喫されたりと、皆さんが楽しい一日を過ごされたのではないのでしょうか。朝の集合に始まり、解散に至るまで皆さんのおかげで何事も無く一日を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。特に、伴走と大きな子供の管理をして頂いた茂山さんと市橋さん、ありがとうございました。個人的には、船方でビール(獺祭)が飲みたかったぞ！このヤロー！！（猪熊心の叫びより）

5月講師例会（5月15日）
教育部 副部長 茂山 守

新年度、最初の教育部担当例会である、5月講師例会をホテル河長にて開催いたしました。今回は、有限会社お菓子のピエロ・代表取締役の大日田哲男氏をお招きして、「食と健康、みんなの笑顔がみえてくる、からだにやさしいお菓子のはなし」と題して講演して頂きました。最初と言うことで例会運営の段取り、流れがスムーズに出来ませんでした。今考えると、打ち合わせをしっかりとっておけば良かったと思います。でも一年はこれからですし、最初から大成功できる人はいません。今回の反省点は、皆さんの意見を聞いて一つひとつ直していき、勉強の出来る例会、楽しい例会を部員皆で作って行きたいと思います。皆さんも遠慮なく、例会運営に関して些細な事でもありましたら、教育部員に声をかけて下さい。今年一年、木田部長と頑張りて行きたいと思いますので、宜しくお願いします。

8月講師例会
教育部 濱 脩

8月講師例会は、まだ年金の5,000万件未照合問題の真っ只中で、講師に宇部社会保険保健事務所職員 佐々木健氏をお迎えし「私達の年金について」と題して、年金のお話をして下さいました。内容としては、大筋の年金の仕組みを学びました。お役人という職業の立場上、後の問題になってしまうような突っ込んだ内容のお話が無理そうなところが、少し残念だったような気もしますが…。でも、予定時間を大オーバーするほど、質疑応答も盛り上がりました。私的には、会社の年金保健などほとんどの事務的な仕事は、社会保険労務士さんに任せっきりのところもありましたので、自分でも勉強する良いチャンスが出来、個人的にも社会保険事務所に行くきっかけ作りも出来たのかなあと思いました。8月例会後にも全国の社会保険庁職員の横領問題、厚生労働省などでの、隠ぺい問題などが、次々とニュースに出てきています、ぜひとも気を引き締めていただきたいものです。

9月講師会（9月14日）
教育部 大下 智寛

9月の講師例会は、オーダーサロンGAMINの尾崎洋子先生をお招きして、「経営者のためのカラーコーディネート」と題してご講演いただいた。普段あまり気にも留めていなかった色についてのお話。普段の講演の対象は全て女性ということもあり、男性相手には少々頭を抱えておられた所もあったが始まってみればさすがの壇上捌き。ピンクの洋服を纏った華やかこの上ない先生の口から最初に突いて出た言葉。それは般若心経である。大般若経600巻を圧縮してエッセンスのみを搾り出した、266文字の大変密度の濃い功德のあるお経。色即是空・空即是色。全ての次元・空間をたったの8文字で表している言葉から、経営者に対する教が飛ぶ。色の講義にしてはとても奥深く哲学的な内容であったように思う。また、英雄色を好むの真意についても分かり易くご説明頂き、講演の時間はあっという間に過ぎて行った。もちろん専門である色彩についての講義も頂いたわけだが、こちらにも実に興味深い内容だった。経営者のファッションのみならず、目に見える物の世界の捉え方を、色を通じて教えて頂いた貴重な90分であった。最後に、尾崎先生からの言葉にもあったが若き経営者の方々には、是非ともこの宇部を、いやもっと広くは地球を、元気で住み易い空間にして欲しいのだと…この言葉をしっかりと肝に据え、日々精進して行きたいものである。



国際交流事業（8月19日）
企画部部長 中川繁巳

8月19日に小野湖特設会場にて開催された「小野湖交流ボート大会」に参加する事業、会員の皆様のおかげで無事に成功しました。猛暑の中での競技参加や応援など、本当にお疲れ様でした。さて今回は、国際交流の真髄を探るべく、若き経営者の会会員とご家族、宇部在住の留学生とご家族、それぞれ混成3チームで出場しました。出艇直前に作戦会議をして(もちろん留学生に分かりやすいように)、いざレースでは力を合わせ、競技後は、ああだこうだと第2レースへの反省をする(もちろん留学生に分かりやすいように)、このようにして各会員なりの国際交流を実現しました。なおかつ、総合29位、46位、47位という輝かしい結果を残せました、52チーム中ですが…。また留学生の皆さんやご家族にとっては、日常では楽しめないであろうイベントに参加できたことが彼らのいい思い出になった、と後日、常盤工業会や宇部フロンティア大学よりお礼の言葉を頂きました。ボート競技やその結果以外でも、大会参加にまつわる行事で多くのコミュニケーションがとれました。この度で2回目の参加となった小野湖交流ボート大会ですが、留学生を取り仕切る常盤工業会では、「毎年恒例」になりつつあり、今回参加した人、出来なかった人も、次回が楽しみという思いがあるそうです。若経と留学生チームの大会参加にあたっては、評価できる点もありつつ、反省し今後改善すべき事柄も少なくありませんでした。来年度に三度、ボート大会に出場となれば、よりスムーズで気持ちよく立ち振る舞えるでしょうし、順位もあがって決勝進出なんてことも…。そうになったら幸いです。



一泊研修（6月9日・10日）
教育部 部長 木田英二

本年度の一泊研修を下関市長府で行ないました。下関マリンホテルでの宴会・宿泊をして、20名の参加人数でした。参加者については、遅刻者がなくスムーズにセレモニーが行なわれ大変、助かりました。懇親会では、総勢7名の給仕人とのアトラクションで二人羽織をしましたが、ワンコそばをホテルに注文したところ、とてもホットなワンコそばが出てきて、ビックリしました。どうにかこうにか、やけどしない熱さだったみたいで、“ホット”しました。もう一つのアトラクションゲームは、ツイスターでした。ルールとやり方が準備不足で、ご迷惑をおかけしました。でも、懇親会では楽しいひと時を過ごせたのではないのでしょうか。翌日の朝は、ホテルのロビーに集合して長府観光会館に行き、案内人をお願いしての城下町長府散策を行ないました。参加者は13名となり、人数が減ってしまったことが残念でした。コースとしては長府藩侍屋敷、功山寺（高杉晋作回天義挙銅像）、長府毛利邸、乃木神社（乃木將軍旧邸）、そして忌宮神社を散策しました。城下町長府の歴史が案内人の方のお蔭で、詳しくわかったのではないのでしょうか。2時間の散策、お疲れ様でした。最後に、教育部より参加者の皆様へ、いろいろ事件がありましたが、皆様のご協力により、無事に一泊研修が終わりましたこと、感謝いたします。

